

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	チームで作る介護計画とモニタリングでは、カンファレンスにて話し合いをして介護計画を作成しているも、計画通りのケアが出来ていなかったり全ての職員がモニタリングの意味をしっかりと把握できていない。	グループホームの家庭的な生活の中にも全て介護計画の基に生活を送って頂いているという事を全ての職員に把握して頂く。計画を進めていく中でのモニタリングについても把握して頂ける仕組みを構築する。	介護計画を作成する際出来るだけ多くのスタッフに係わって頂き作成する。(毎月のフロア会議にて)その計画を全ての職員に周知して頂く。モニタリングをしっかりと行い適切な介護計画へと変更の頻度を上げる。そのことで、自然と介護計画を意識して、入居者の変化に気付く事となる。	6ヶ月
2	6	身体拘束をしないケアの実施という点で、現在は身体拘束防止のマニュアルを回覧できる様にしたり、身体拘束についての研修を実施しているも、全ての職員が正しく理解しているかは疑問である。	身体拘束に繋がるあらゆる事を全ての職員が理解する。理解した上で些細な事(声掛け、対応)などで拘束となる事を知って頂き、そのような事も無いホームを目指す。	年間2度の身体拘束防止の研修を実施する。毎月の会議の中で身体拘束(拘束に繋がる対応)は無いか振り返る。新人職員の入職時に勉強会を行い周知をはかる。	12ヶ月
3	43	排泄の自立支援では、多くの職員が現状に満足してしまっている。失禁を未然に防ぐなどの働きかけが少なく思われる。	各入居者の尿取りパットの使用量、1割減を目指す。	適時の声掛けが出来るように各スタッフに注意を促す。毎月のフロア会議にて振り返りし、情報交換、共有をする。職員の意識改革に繋がるように研修を半期に一度行なう。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月